

もり
森 律子 (1890~1961)



女優。東京府東京市下京橋(現、東京都中央区)出身。松山出身の弁護士であり、代議士であった森肇^{はしめ}の次女。跡見学校(現、跡見学園女子大学)を卒業後、両親の強い反対を押し切って帝国女優養成所の第1期生となり3年間修業する。明治44(1911)年、帝国劇場開場公演「頼朝」の浦代姫役で初舞台を踏んだ。初演以来、美しい顔と、明るくはなやかな性格で、帝劇の看板女優となり、ヨーロッパへ演劇視察にも出かけた。

昭和4(1929)年、帝劇が解散となり、松竹に移るとともに、新派に参加し、井上正夫ともたびたび共演した。

略歴

- | | |
|-------------------|-----------------------------------|
| 明治23(1890)年10月30日 | 東京府東京市下京橋に生まれる。 |
| 明治38(1905)年 | 跡見学校を卒業 |
| 明治41(1908)年 | 帝国女優養成所に第1期生として入所 |
| 明治44(1911)年 | 帝国劇場の柿落し公演「頼朝」にて初舞台を踏む。 |
| 大正2(1913)年 | 演劇視察のため、ヨーロッパを旅行 |
| 昭和4(1929)年 | 松竹に移籍する。 |
| 昭和5(1930)年 | 新派の井上正夫と初めて共演する。 |
| 昭和9(1934)年 | 「三家庭」で養女の赫子 ^{かくこ} と共演する。 |
| 昭和18(1943)年 | 東京劇場で、花柳章太郎や水谷八重子と共演したのを最後に舞台を去る。 |
| 昭和36(1961)年7月22日 | 70歳で永眠 |

(写真提供：砥部町教育委員会)

〈関連図書〉

- ・森律子『妾の自白』 日本評論社 1919年
 - ・森律子『女優生活廿年』 実業之日本社 1930年
 - ・尾崎宏次『女優の系図』 朝日新聞社 1964年
 - ・倉田喜弘『明治大正の民衆娯楽』 岩波書店 1980年
 - ・愛媛子どものための伝記刊行会『愛媛子どものための伝記 第5巻 森律子・井上正夫・伊丹万作』
愛媛県教育会 1984年
 - ・嶺隆『帝国劇場開幕「今日は帝劇明日は三越」』 中央公論社 1996年
 - ・『県民メモリアルホール 人物探訪第2集』 愛媛県生涯学習センター 1998年
- 〈主な収蔵資料〉…(P229, 152)